

No. 11 : 県農産物のPR活動

昨年12月から今年2月にかけて、香港各地で農産物のPRを展開した。

まずは、ナシの「にっこり」。昨年12月中旬の香港東西の街、屯門と日出康城の大型商業施設内で、とちまるくんとPRを行った。店頭に並ぶにっこりは壮観で、多くの客が足を止め、人だかりができる場面もあった。会場の近所に住む香港の知人も、その大きさに驚き何個も購入してくれた。他の海外産と比べ安くはない価格だが、「見た目も味も全然違う」と喜んでいて。

今年2月5日、金鐘で開催された在香港日本国総領事館主催の天皇誕生日祝賀レセプションでは、本県ブースで県産イチゴの「とちあいか」を提供。来場した香港経済界や各国大使館関係者、メディアなどに生産量日本一の「いちご王国・栃木」を紹介した。試食の列は絶えることなく、「どこで買えるのか」と質問攻めにあった。現地の新聞でも報じられた。

香港でもイチゴは大人気だ。2月中旬の旧正月を前に商戦は活気を帯びるが、量では九州産が席卷しているのが現状だ。輸入規制や地理的条件などの制約はあるだろうが、ここが踏ん張りどころだと感じる。今回のような機会も最大限に活用し、さらなる認知拡大を図っていききたい。

また、1月1日から2月中旬までの期間、井・定食が人気の日本食店「海街井」全店舗の全メニューで、県産コシヒカリ（越光米）を使用するプロモーションを実施した。人気KOL（世の中に影響力のある人物）の3者による発信も行い、北角、靚塘、坑口の各地で香港の人々に県産米を提供することができた。店舗側の関心も非常に高く、今後の広がりにも期待したい。

香港のコメ市場は、タイ・ベトナム産の長粒種が輸入量の約8割を占める。日本産は1割未満だが、近年輸入量は増加傾向で、スーパーには日本各地の米が並び、日本産米を提供する店も多い。近所の居酒屋ランチも日本産米だ。価格高騰など日本国内の課題はあるが、中長期的な視点に立てば輸出拡大に向けた取り組みは一層重要になるだろう。

本県は昨年12月に県産農産物輸出促進方針を策定し、香港をイチゴ、コメ、ナシの販路拡大などに取り組む地域とした。前線を担う香港事務所でもさまざまな機会を通して取り組みを着実に進めていきたい。



【香港での県産コシヒカリのプロモーションで使用したポスター】